



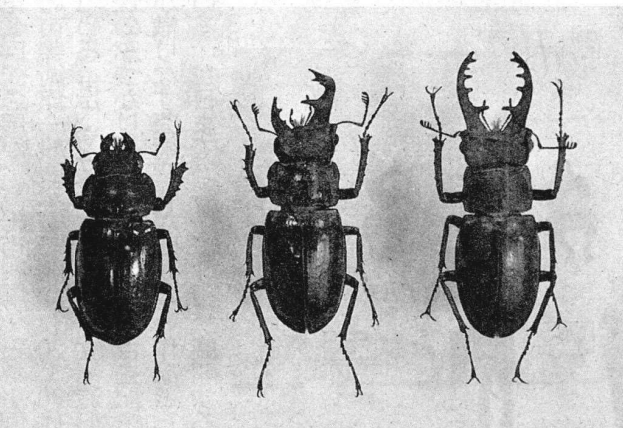
東エリア

高松・さぬき・東かがわ・土庄・小豆島・三木・直島

右は雄、左は雌 希少クワガタ

県内初確認 さぬき

安森さんが発見したミヤマクワガタの雌雄モザイクの標本(中央)。右は一般的な雄、左は雌



安森さん(高松)「数十万分の1の確率」

体の左右で性別の異なるミヤマクワガタを、NPO法人みんなであつくる自然史博物館・香川(まんのう町)理事の安森盟文さん(59)＝高松市伏石町＝が昨夏、さぬき市多和の山中で発見した。雌雄モザイクと呼ばれ、数十万匹に一匹しか見つからないという希少な個体で、同博物館によると県内で確認されたのは初めて。

て。8、9月にはまんのう町中通のことなみ未来館で標本を一般公開する。

雌雄モザイクの個体は、細胞分裂の過程で起こるミスや染色体レベルでの異常などが原因で生まれるとされるが、詳しいメカニズムは分かっていない。

安森さんが発見したミヤマクワガタは、同種では標準的な大きさの体長5センチほど。はさみ部分に当たる大あごは右側が雄のように大きく、左側はやや小さく、雄と雌両方の特徴を備える。触角や前脚も右側に雄、左側に雌の特徴が強く出ているといい、昨年7月15日夜、木の近くで弱った状態で見つけた。現在は標本にして保管している。

安森さんは20年以上前から昆虫採集が趣味で、2009年からはレッドデータブックの改訂調査で県と連携を図る同博物館のメンバーに。現在はレッドデータブックのクワガタムシや両生類などを担当しているが、雌雄モザイクは「発見

できると思わないほど珍しい存在」で、見つけた瞬間は「気が動転し、記録用のカメラが手の震えで操作できなかった」と振り返る。

同博物館は「子どもに発見した個体のほか、海外産などクワガタの雌雄モザイク計5種を展示する。問い合わせは同博物館へ070(4073)0989」。